



第三期がんプロフェッショナル養成プラン —自治医大の特色を活かした教育と研究を—

自治医科大学大学院地域がん総合医学 臨床腫瘍科 特命教授 山口 博紀

文部科学省は、がん対策基本法第14条中の「がん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成」に応じて、2006年にがんプロフェッショナル養成プラン事業を策定し、2007年から実施されました。これは5年を事業期間として、95大学18拠点の参加大学に対し、1拠点につき年間約1億円を措置して、大学院の枠組みの中に医師、薬剤師、看護師、医学物理士などがんに特化した医療人の養成を行う取り組みに対して支援を行ったものです。全国規模の大学が、大学間、職種間で連携してがん専門家の育成に協力するという、これまでに例を見ない画期的な取り組みと言えます。



5年後の2012年に新たに策定された第二期のがんプロ事業として、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事業が開始されました。100大学15拠点の参加大学が、個性や特色・得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための教育拠点を構築しました。また放射線治療学、臨床腫瘍学、緩和医療学講座などを新設する場合には国から資金面で補助がなされ、多くの大学にがん診療を専門とする講座が新設されました。

これらのがんプロ事業により、全国各地において各病院のがん診療に携わる多職種、地域のがん医療従事者を対象に数多くのがんプロセミナーが開催され知識・技術が共有されるとともに、一般市民を対象として多くのがんに関する市民公開講座が開かれました。これらセミナーや公開講座、また各大学で行われているがん診療・がん研究に関する講義内容はe-learningのコンテンツとして一箇所にまとめられ、全国どこからでも最新のがんの情報にアクセスでき、知識を習得できる環境が整いました。またがん専門資格者数の増加やがん研究における貢献においても一定の成果を出すことができました。

さらにその5年後である2017年度より文部科学省の第三期のがんプロ事業として、「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン』」が開始されています。自治医科大学は東京大学を基幹施設とした横浜国立大学、東邦大学、北里大学、首都大学東京と連携し「がん最適化医療を実現する医療人育成」をテーマとしてがん診療・研究に関する様々な取り組みを行っています。

第一期、第二期のがんプロ事業である程度の成果がありましたが、いまだ解決されていない問題点が第三期がんプロの重点課題となりました。具体的には、厚生労働省の策定した第3期がん対策推進基本計画の追加課題に呼応して、1) ゲノム医

療・プレジジョンメディシン 2) 希少がん、AYA (adult and young adult: おおよそ 16 才から 30 才までの) 世代のがん医療、難治がん 3) ライフステージに応じたがん対策が挙げられております。

自治医科大学はこれら課題の中で、3) ライフステージに応じたがん対策を中心としてがんプロ事業に取り組むこととなり、地域がん患者の生活の場や生き方を大切にしながらがん診療を実践できる人材の養成を目標としてプロジェクトを展開しています。

第三期の事業が始まってまだ 4 ヶ月ですが、2017 年 12 月には市民公開講座「さまざまなライフステージにおけるがん」を開催し、本学のライフステージ領域におけるがん対策の取り組みを紹介するとともに、2 名のがんサバイバーをお招きしがん患者の視点でのがん診療の体験や今後のがん診療のあるべき姿への提言を講演いただきました。参加者は 200 名を越え、一般市民からも満足度の高い評価をいただきました。

また、がんプロ 6 大学合同セミナーとして、連携大学を遠隔テレビ会議システムで中継し、1 会場の講義を全ての会場で受講し、質疑応答も自由にできる講演会を 1 ヶ月に数回程度行っております。18 時過ぎからの開始で、仕事に一段落ついたところで院内の多職種はもちろん、近隣の調剤薬局や在宅ケア施設から参加していただいています。

教育面では大学院のコースとして、大学院生を対象とした地域がん総合医学コースを平成 30 年度に開講する予定です。また、学内外の医師・医療従事者を対象とした e ラーニングで受講できる地域がん医療支援インテンシブコースを平成 29 年度に開設しました。医師を対象としたインテンシブコース I と、看護師、薬剤師、MSW 等の医療従事者を対象としたインテンシブコース II では、それぞれ規定数のコンテンツを受講し小テストに回答することで修了となり、自治医科大学大学院から修了証が交付されます。自治医大卒業生の皆様をはじめ、地域病院やへき地診療所ではがん診療に携わっている医療従事者の方には是非受講をおすすめいただき、最新のがん診療と地域がん医療の知識を e ラーニングで学んでいただければ幸いです。受講料は無料です。

<https://www.jichi.ac.jp/ganpro3/course/course2.html>

よりお申し込み下さい。

研究面では、「医療の谷間へ灯をともし」の自治医大の建学精神に基づき、自治医大がんプロとしてがん医療の空白地帯をなくす取り組みにも力を入れております。具体的には、1) Big data (レセプトや DPC データ) を用いたがん診療空白地帯の把握と、2) 自治医大卒業生ネットワークを利用した、ウェブアンケート調査による地域がん診療の実態把握を予定しております。特に 2) の研究におきましては、自治医大卒業生の皆様にウェブによるアンケート調査にご協力賜りたく存じております。すでにお手元に WEB アンケートシステムへの事前登録へのご協力のお願についての依頼状が届いているかと存じますが、まだメールアドレスの登録がお済みでない場合は

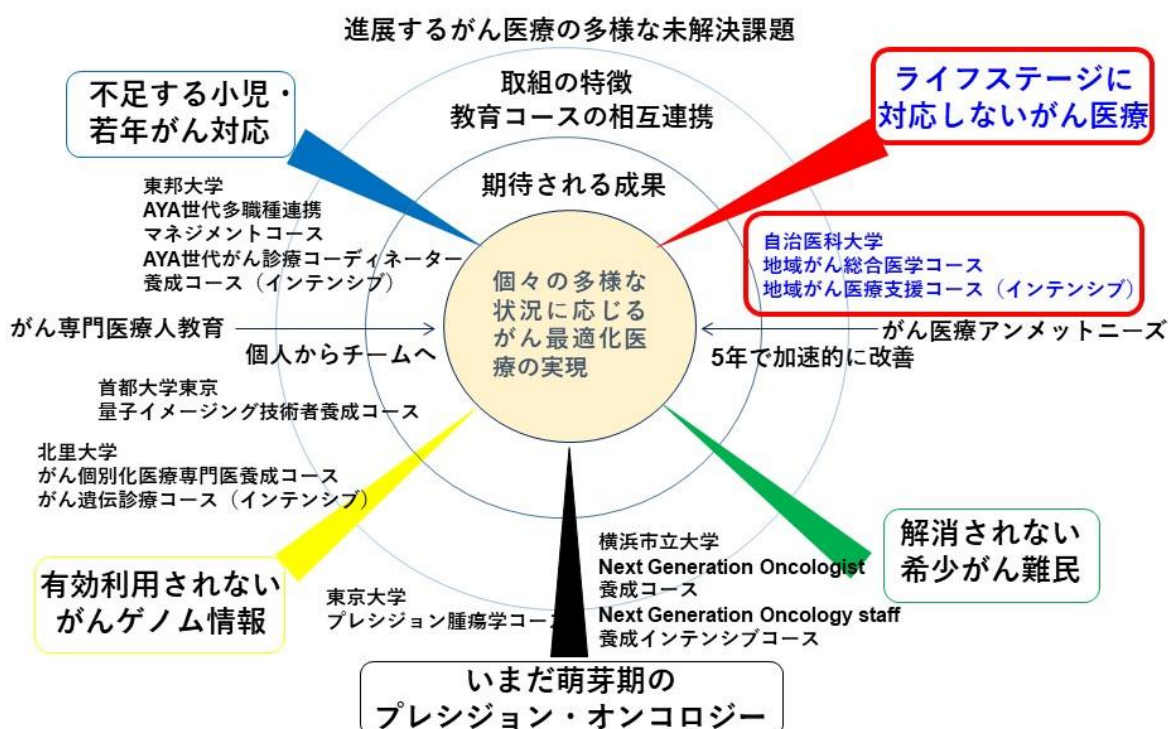
<https://www.jichi.ac.jp/ganpro3/questionnaire/index.php/373522?lang=ja>

よりご登録いただけますようお願い申し上げます。

各都道府県で開催されます県人会では貴重なお時間をいただき、地域腫瘍学セミナーを開催させていただいており、たいへん感謝しております。そこで皆様にお会いできますことを楽しみにしております。

全国の地域医療に従事されております自治医大卒業生のネットワークは我が国のがん医療のレベルを底上げするためには欠かせない存在です。今後ともがんプロの教育・研究活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

がん最適化医療を実現する医療人育成



13

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープンラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp

<https://grad.jichi.ac.jp/>